

地域との連携・協働による
新しい高等学校づくり

鳥取県教育委員会事務局高等学校課 新田 秀登
令和元年10月23日

教育振興基本計画改訂の主な内容

自他の価値を尊重することができ、夢や目標、
学びに向かう意欲を持って生きる『自己肯定感』を育む
『私たちの未来 とっとりの未来を希望を持って生きる』

教育は、県民一人一人の豊かな生き方を創ると同時に、ふるさと鳥取県の豊かな未来づくりの基礎となるものであり、第二期計画では、「自立して心豊かに生きる 未来を創造する 鳥取県の人づくり」を基本理念として、取組を進めてきました。

第三期計画においては、現行の「基本理念」や「基本理念を支える『4つの力と姿勢』」を**継承**するとともに、基本理念を実現するための**基盤**となるものとして、子どもたちの「**自己肯定感**」を位置づけ、夢や目標、主体的な学びの意欲を持って生きる子どもたちを育んでいくことに重点を置いて取り組んでいきます。

基本理念と4つの「力と姿勢」

基本理念 自立して心豊かに生きる 未来を創造する 鳥取県の人づくり

自立して生きる力

- ・生きていくために必要な知識、技能、教養を備え、学び続ける姿勢
- ・主体的に考えて判断し、他者と協働しながら課題を解決していく力
- ・志を高く持ち、自らの夢を描きながら粘り強く挑戦し、実行していく力

社会の中で支え合う力

- ・人々との関わりを大切にし、コミュニケーションを豊かにとることができる力
- ・自他ともに尊重し、人権や命、多様性を大切にして共に生きる姿勢
- ・社会の一員としての自覚と規範意識を持ち自らを律する力

豊かな心と健やかな体

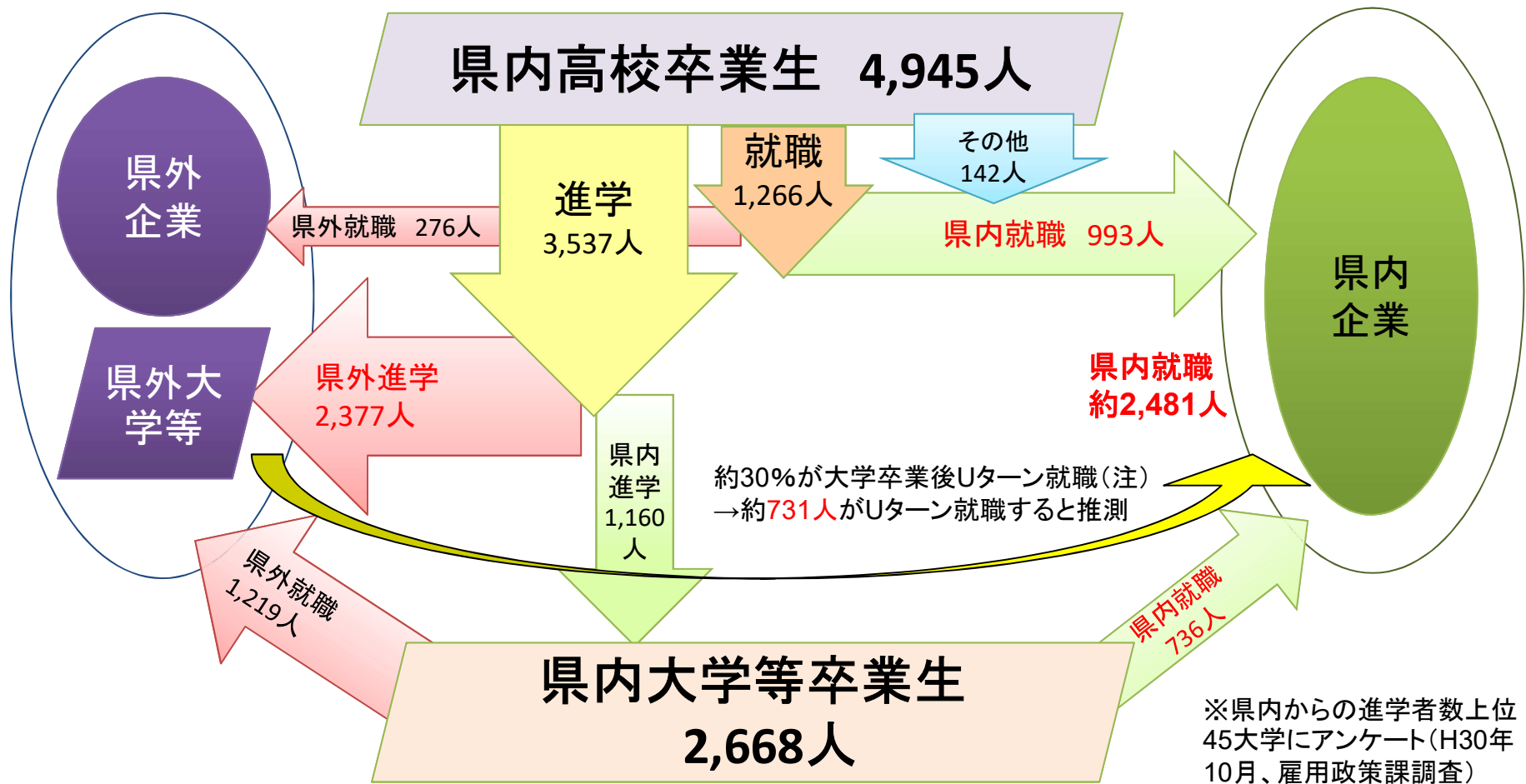
- ・心とからだの健康づくりや体力の向上に取り組む姿勢
- ・思いやり、たくましさ、感動する心など豊かな人間性を発揮できる力
- ・文化芸術、スポーツ、読書やボランティアなどの活動に積極的に取り組む姿勢

ふるさと鳥取県に誇りを持ち、未来を創造する力

- ・ふるさとの自然、歴史と伝統を守り、受け継ごうとする姿勢
- ・地域やふるさとに誇りと愛着を持ち、その発展に貢献しようとする姿勢
- ・グローバルな視点を持ち、社会の変化に対応しながら新たな価値を創造していく力

高校生、大学生の県内定着状況

- H30年3月卒の県内高校卒業生のうち、進学者は7割超、就職者は3割弱
- 進学者のうち7割弱は県外進学、就職者のうち8割弱は県内就職



ふるさとキャリア教育の充実

将来の地域産業を担う人材育成

「地域産業や地域社会との連携・交流」

地域産業や地域社会への理解と貢献意識を深めます



コラボ商品開発

専門学科・総合学科等においては、地域の生産者や、企業等と連携した商品開発を実施し、流通や販売につながる活動を行っています。

例)

- 鳥取商業&大江ノ郷自然牧場「おいもさんプリン」
- 鳥取湖陵&地元生産者、パティシエ「梨ケーキ」
- 智頭農林&地元生産者「ルバーブジャム」
- 倉吉農業&食品製造業者「イノシシレトルトカレー」
- 倉吉総合産業&長谷川農園「メロンジャム」
- 米子南&地域おこし協力隊「伯州綿てぬぐい」
- 日野&アペゼ「日野産蜂蜜の焼きドーナツ」

鳥商デパート

生徒が主体となって、企画・運営・仕入・販売・決算までを行う。1年生からビジネス教育を実施し「鳥商教育の集大成」として県民に喜んでいただけるイベントとして定着しています。

平成30年度
来客数 約10,000人



普通科高校インターンシップ

教員

生徒

企業

- ①ニーズ把握
- ②取組内容・時期の検討

『魅力あるプログラム』

地域課題発見・解決型 探究学習

地域と連携ながら、地域の課題を発見し、他と協働して解決する探究学習を実施しています。

地域に誇りを持ち、これからの鳥取県の未来を考え、貢献しようとする心の育成につながっています。

例) 鳥取西高校：思索と表現

岩美高校：イワッツ・ミッション

鳥取中央育英高校：地域探究の時間

米子西高校：みらいチャレンジ活動

米子高校：米×米プロジェクト

地域と連携した教育

地域と連携して「ふるさと鳥取」に 愛着と誇りを持った人材を育成！

米子南高校 「製菓講習会」

地域の方から技術を学ぶ



青谷高校 「サーフィン授業」

地元サーフィン関係者と連携



倉吉農業高校 「乗馬指導」

乗馬センターと連携



県立学校裁量予算制度

学校長が独自性を発揮した学校運営ができるよう、学校運営費、教職員旅費、学校独自事業費の総額を年度当初に学校に一括配分し、学校長裁量による予算執行(必要に応じ節間流用が可能)を認めることにより、学校の自立度を高め、生徒の状況に応じた学校づくりを進める。

[メリット]

- ・各学校の生徒の実態に即した事業の企画立案が可能
- ・分配された予算の枠内で事業間の流用が可能となるため、学校長の判断で、生徒の状況に応じた迅速な対応が可能
- ・事業を効率よく実施し、捻出した経費を活用して特色ある取組が可能
- ・予算主務課を一本化したことにより、令達事務の減少を図るとともに、年度当初に配分総額を予算令達するなど事務の簡素化が可能

本県における取組事例①

鳥取県立米子高等学校

生徒数 (令和元年5月1日現在)

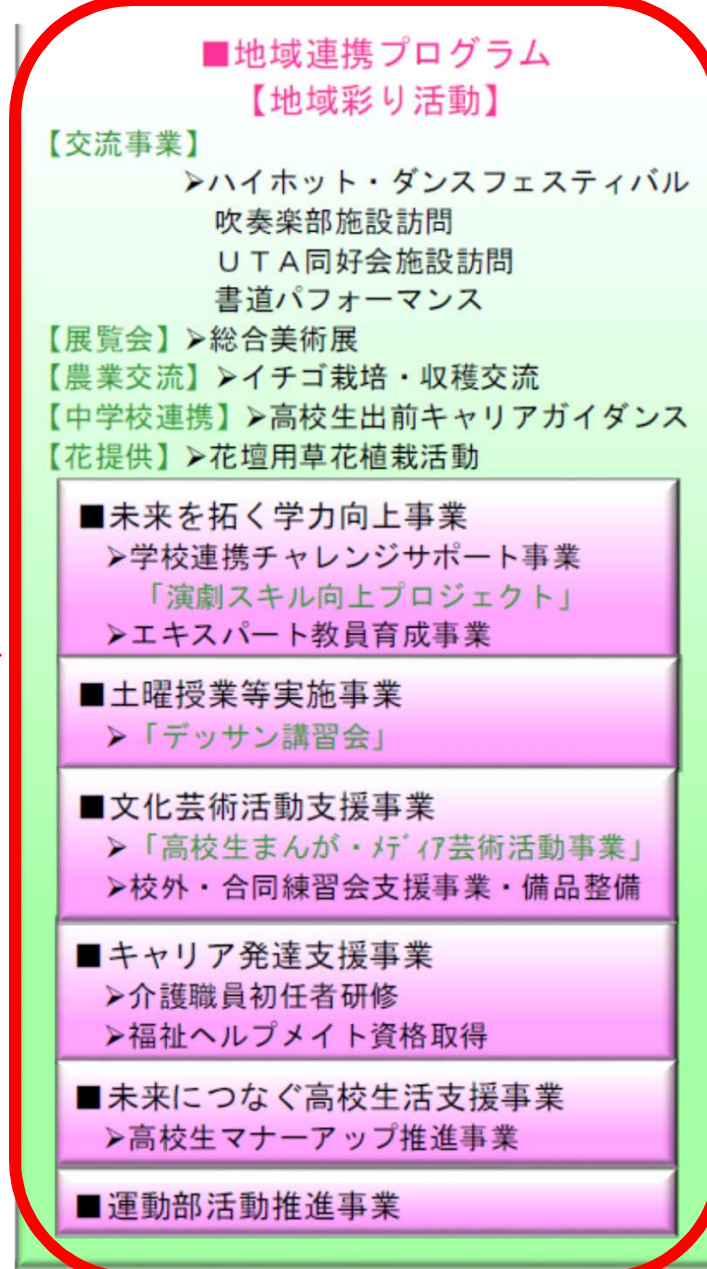
総合学科	1年		2年		3年	
	男	女	男	女	男	女
	50	102	46	106	46	102



★昭和48年創設。平成10年度、4学級を募集定員とした総合学科となる。今年度、総合学科設置後22年目。自然科学・国際文化・生活福祉・情報ビジネス・健康ビジネス・健康スポーツ・工芸デザインの6系列、約100の科目を設置。

★平成29年度、「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞。地域探究活動である「米×米プロジェクト」をはじめとした地域と連携・協働した多くの教育活動の発展・拡充を図り、学校の特色化を推進。本年度、学校運営協議会を県内県立高校で初めて導入。

米子高校ビジョン



米子高校の取組

各教科・科目



米子市文化ホールへの花苗移植(農業)



米子駅等へのプランター提供(農業)



保育実習「うどんづくり交流会」(家庭)

米子高校の取組

部活動



JR米子駅踏切地下道壁画アート制作
(美術部・漫画研究部)



米子市文化ホール前の花壇デザイン
(美術部)



ハイホットダンスフェスティバル
(ダンス部)



老人保健施設ミニコンサート (UTA同好会)

米子高校の取組

中学校連携



高校入試面接出前授業

外部人財活用事業

社会人講師

地域社会と連携した高等学校教育を推進するため、先端技術や各教科に関する専門分野の優れた知識・技能を有する一般の社会人や大学教員を、各教科の一部の領域を教授する講師として招聘。

教科・科目	テーマ(項目)	指導内容・方法等
農業 フラワーデザイン	フラワー装飾	・園芸デザインとフラワー装飾の基本 ・フラワー装飾の実際
芸術・音楽Ⅲ	箏演奏	箏演奏の基本
芸術 コンピュータアート	photoshopを利用したイラストの描き方	photoshopとペンタブレットを使用したイラストの作成
体育 スポーツⅣ	様々なダンスの基本技術	現代的なダンスと創作の方法
福祉 介護福祉基礎	暮らしとエチケット	・福祉の現場に必要な接遇
家庭 生活と福祉	高齢者の理解と施設実習 ～介護支援専門員に学ぶ～	・高齢者への理解を深める ・高齢者福祉施設の取り組みと職員の仕事を学ぶ ・高齢者との関わり方～認知証への理解 ・施設実習の心構えとふりかえり
福祉 コミュニケーション技術	視覚障がい者の現状と今後の課題 視覚障がい者・盲導犬の理解と援助技術	・視覚障がい者への理解を深める ・盲導犬への理解の取り組みを学ぶ ・盲導犬との生活を理解する
福祉 コミュニケーション技術	盲ろう者の理解と援助技術	・視・聴覚障がい者の現状 ・視・聴覚障がい者の特性とコミュニケーション ・点訳、点字の表記法の実技 ・日常会話における手話の技術

米子高校における社会人講師を活用した授業(一部)

米×米プロジェクト

平成26年度から3年次の「総合的な学習の時間」において、グループ探究活動により、米子高校生が考える「米子市中心市街地活性化計画」、通称「米×米プロジェクト」に取り組んでいる。

主な内容 と 連携先等

講演会

・・・地元NPO法人

**フィールドワークと
ワークショップ**

・・・地元商店街

中間発表

・・・NPO法人、鳥取大学、経済産業省

最終発表

・・・NPO法人、鳥取大学、米子市



「地方創生☆政策アイデアコンテスト」への応募

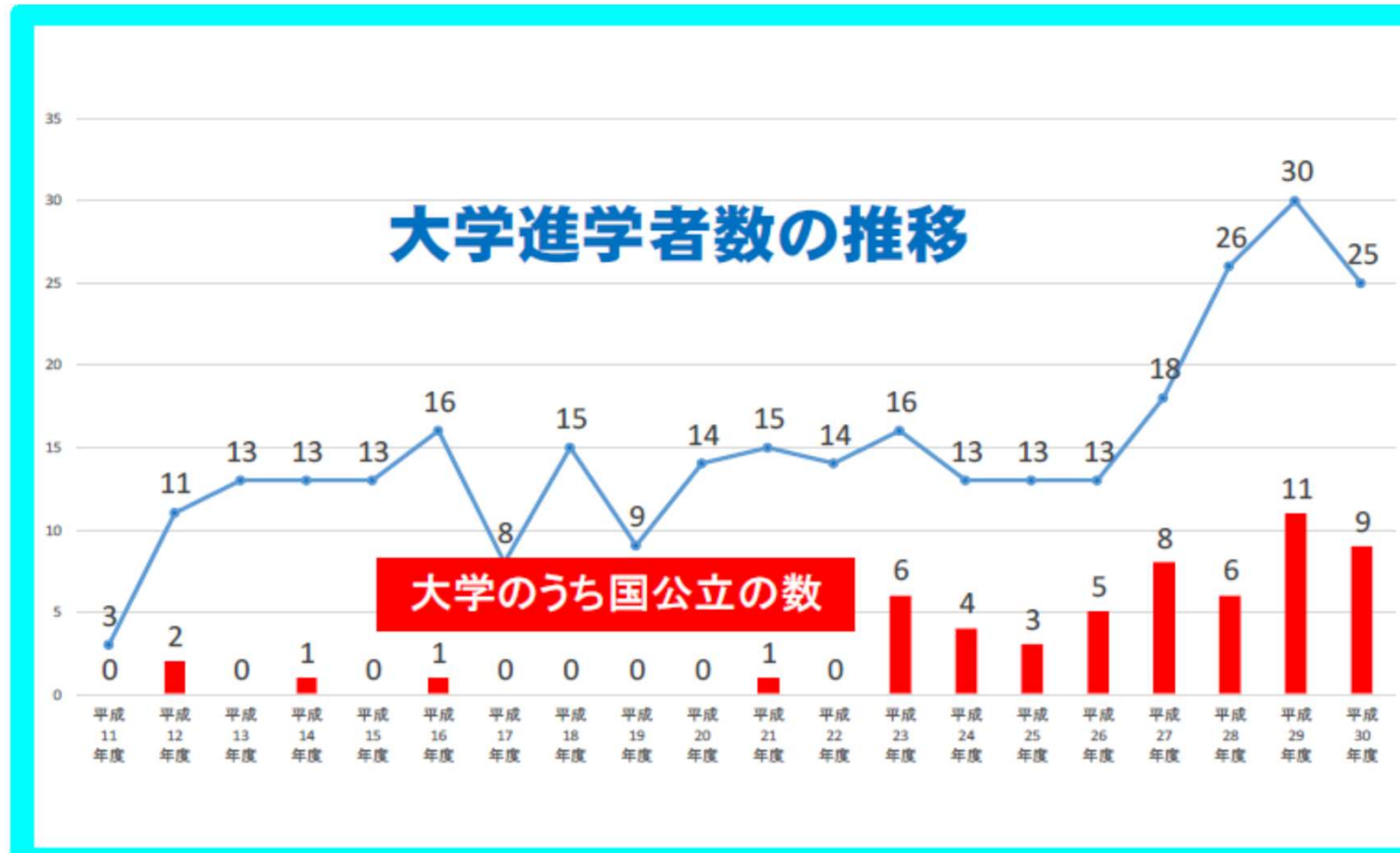


「高校生ビジネスプラン・グランプリ」への応募



米子高校の進路実績

地域の方々との交流により、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を自らの問題としてとらえ、地域貢献意欲を高め進路実現に向かう生徒が増加



本県における取組事例②

鳥取県立日野高等学校

生徒数 (令和元年5月1日現在)

学科名	1年		2年		3年	
	男	女	男	女	男	女
総合	14	15	28	30	30	19



★平成12年設置。総合学科。平成26年度、2学級を募集定員とした。総合進学系列、情報ビジネス系列、アグリライフ系列、ヒューマンケア系列に分かれそれぞれの分野で活躍できる人材の育成を目指す。

★鳥取県南西部、日野郡内唯一の高等学校。地域資源を活用し、協同的な学びの場を多く取り入れ、日野郡全体を学びのフィールドとする教育活動、すべての大人を指導者とする教育活動、生徒自らが指導者・発信者となる教育活動を展開。

日野高校の取組

1年次



おしどりトーク



鵜の池マラソン



人間力アップ合宿(ラフティング体験)

日野高校の取組

2年次 職場体験学習



受入先事業所による生徒面談(1年次)



体験学習の様子①



体験学習の様子②

日野高校の取組

3年次



事業所説明会



面接指導

日野高校の取組

各教科



日野高ショップ(商業・農業)



日野高版デュアルシステム(農業)

課題研究

3年次の「総合的な学習の時間」において、グループ探究活動により、課題研究に取り組んでいる。グループごとに担当教員のほか、地域サポーターと呼ばれる地域の人材が生徒の探究を支援する。

研究テーマ	内容(進捗状況)	つながるマルシェでの活動	研究ゴールのイメージ
地域食材でスイーツ開発	日南町の特産品を使ったスイーツや、ご飯のおかずなどを研究開発。商品化、販売を目指す。「つながるマルシェ」もしくは今後の「日野高ショップ」で販売予定。「トマトスナック」を試作。10/4おしどりさんとの打合せ。商品化を目指す。	「トマトスナック」販売予定。	【販売】 11月17日(日)「高校生カフェ」(金持テラス)で販売
江府町の特産品開発	江府町の特産品であるブルーベリーなどの果物を使用したタルト、梨(新甘泉)を使用した大福を開発し、販売を目指す。梨とブルーベリーの摘果作業を手伝った。「つながるマルシェ」での販売を考えている。10/4試作。	「大福」試食+アンケート	【販売】 11月17日(日)「高校生カフェ」(金持テラス)で販売 大福(新甘泉)の商品化
日野町のPR動画	4~5月に生徒が撮った町内の動画を地域サポーターに見てもらい、実際にPR動画を作るために必要なシナリオ作り、撮り方のポイントなどを教えて頂いた。習ったことをもとに、改めて動画を撮影していく。6月から動画の編集作業を行っている。	動画の作成状況の報告 ※現在PC更新により悪戦苦闘。作品が無い状態	【制作】 日野町をアピールする動画の完成し、行事の際に披露(JAのモニター活用) 1月学びの成果発表会など
日野郡の熱い人PR	生徒3名の得意を活かす。日野郡3町の「笑顔がステキな(情熱のある)住民の皆さん」を写真撮影し、その写真にコメントを付し、笑顔の写真展を3町の図書館で開催し、期間中は日にちを決めてギャラリートークをする予定。3町15数名への取材を完了。11月9日(土)「日野高ショップ(日南)」にてギャラリートーク	写真の一部を展示予定	3町各図書館および根雨郵便局で写真展を開催。アンケートボックスも配置。 11/1-15日野町、11/7-14日南町、11/13-20江府町

日野高校における課題研究のテーマ等(一部)

日野郡三町「ふるさと教育」推進事業

1. ふるさと教育の目的

- 若者の地元定着と将来の担い手づくり
- 将来への学び場づくりとして、自分で考える思考力・発想力を養い、地域課題の解決を自分たちで行う実行力を身につける。
- 生涯の仲間が生まれ、多世代交流により自らが地域で活躍することに対する自覚と具体的なイメージづくりにつながり、さらに保護者の児童・生徒の地元定着に対する意識を高める。
- 児童・生徒の地元への定住促進と将来的なUターンにつながり、最終的な地域の担い手として定着することを目的とする

2. ふるさと教育の進め方

- 対象者：日野郡に在住する高校生、日野高校生
- 場 所：日野郡内
- 内 容：学習塾（進学、就職試験等）
 - 地域イベントへの参加・企画
- 地元企業からの企業説明や就業体験
 - 商品開発のコラボ
 - 起業セミナー
- 農業体験・自然体験等イベント・・・等

3. 成果目標

- 令和元年度（採択年度）：組織立上げ、プログラムの策定
 - 対象者への周知、実施
- 短期：日野高校の志願者数の増加（日野郡関係人口の取り込み）
- 中期：公設塾の塾生参加、地域イベントへの参加者増加
- （地域塾が地域に承認され、ふるさと教育へ波及）
- 長期：Uターン、定住者の増加（町外で学んだ知識や技術を地元で発揮）
- 郡内出身者の郡内就職及び郡内起業の増加

日野郡「未来チャレンジ塾（仮称）」の概要図

